

キジムシロ

Potentilla fragarioides var. major

バラ科



キジムシロ

名前の由来

中心部から四方にのびるこの植物の姿を、「むしろ」というわらで編んだ敷物にたとえ、それにキジが座ることを連想して名付けられた。漢字名：雉蓆

形態的特徴

高さ15~30cmで、根のある中心部から四方に葉や茎をのびす。茎、葉柄には長い毛が多く生える。葉は羽状に深く切れ込み（奇数羽状複葉）、2~4対の小葉に分かれる。小葉は頂端の3枚が特に大きく、表面の脈上と裏面全体に長く軟らかい毛がまばらにある。花は黄色で径1.5~2cm、花茎上部に集散状につく。花びら（花弁）はハート型で5枚つく。

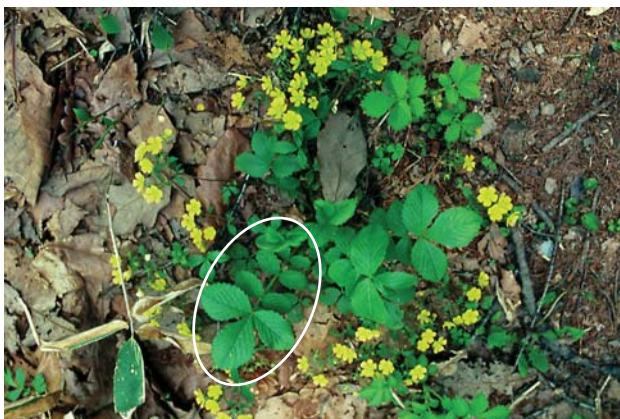
類似種と見分け方：ツルキジムシロや他の黄色い花をつけるバラ科の草本。ツルキジムシロは海岸でよく見られ、長く匍匐する枝をのばして地面に広がる姿が特徴的。他にもキジムシロによく似た花をつけるバラ科の草本が数種類あるが、葉の形、植物全体の姿で見分ける。



キジムシロ



キジムシロの花



キジムシロ。○内で一つの葉（羽状複葉）



類似種、ミツバツチグリ。小葉が三つ葉状に付く複葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

日当たりのよい草地や山地の傾斜地などで、普通に見られる。

分布：国外分布は、朝鮮・中国・シベリア。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい草地や山地の傾斜地などで、普通に見られる。



写真中央にキジムシロ。日当たりの良いところに生育

生活史

開花時期：5月下旬～8月

寿命：多年草。

開花までの年数：不明

他生物との関わり

チャマダラセセリの幼虫の食草となっている。



チャマダラセセリ。幼虫時キジムシロを食草とする

(撮影-吉原利之)

興味深い話

■キジムシロは特に種子を拡散させる手段をもたず、熟した種子は重力にしたがって親株の周辺に落ちるだけである。



キジムシロ



キジムシロ

配慮事項

特になし。

参考文献

「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本山野草・樹木生態図鑑」 沼田真 全国農村教育協会 1990

「花のおもしろフィールド図鑑 春」 ピッキオ 実業之日本社 2001

「北見の蝶」 木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ